

令和3年度 専門学校させほ公務員オプビジネス 自己評価
(公務員初中級ビジネス科・公務員初中級ビジネス本科)

学校教育基本方針 (教育理念)	豊かな人間教育を基礎とし、確かな専門技術を通じて、地域社会に貢献できる人材を育成する。
学校教育目標	1. 学生一人ひとりの目標や夢の実現を目指す 2. 感謝する心と社会人としての基本的なマナーの育成 3. 情操豊かな人間性の育成
重点努力目標	1. 公務員試験1次合格率100% 2. 公務員試験2次内定率100% 3. 社会人としての基本的マナーの育成

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題	
				前 期	年 度 末		
1 教育課程・学習指導							
(1) 科目編成における内容や工夫	公務員に必要な一般教養を習得する。	一般教養科目の中の、一般知識全科目の知識を習得する。	中学・高校で学んだ知識を、公務員の職務に必要な知識へと発展させ、様々な分野での、幅広い知識を習得させる。	A	A	学力に差があるものの全員の知識習得に務めた。	
		一般教養科目の中の、一般知能科目の修得と、問題を解く課程での思考能力を育成する。	新たな科目として、多くの問題に当たらせ、その解決方法を通して、思考の柔軟性を養う。	A	A	演習の時間を多く確保し、養うことができた。	
		適性試験の実施	事務職として、迅速かつ正確な仕事ができるよう訓練を重ねる。	A	A	習慣的に実施し成果につなげることができた。	
	即戦力となるような職業教育カリキュラムを編成する。	即戦力となる社会人としての基礎知識やマナーを習得する。	ビジネスの知識、パソコンの知識など、公務員の職務に必要な科目を設け、知識や技術を習得させる。	A	A	社会人として必要な知識を習得できた。	
		公務員の職種を理解させる機会を設ける。	職種ごとのパンフレットを取り寄せ内容を説明するとともに、官庁訪問など実際の職場を訪問見学し、公務員の職種を理解させる。	B	B	昨年に引き続き、説明会の機会は減少。各自での職種研究に努めさせた。	
		講演会の実施	卒業生などの現場で仕事をしている人呼んで職場の話をしてもらう。	A	A	卒業生による合格講演会を実施した。	
		「基礎力」を養う科目(コミュニケーション、キャリア教育、ビジネス教育)を配し、特定の「基礎力」を高めるように努める。	ビジネス能力やビジネス文書の科目を配し、コミュニケーション能力の育成とビジネス基礎能力を高める。	A	A	資格・検定の取得率は良好だった。	
		職種ごとに必要とされる科目の内容を分析し、授業の内容やカリキュラムを構成する。	個々の希望職種を調査し個別指導を行う時間を設ける。	個々の希望職種を調査し個別指導を行う時間を設ける。	B	B	面談やカウンセリングを実施した。
				事務系希望と公安系希望を分けて、試験内容に沿った科目を個別に指導する。	A	A	事務系には適性試験の練習、公安系にはトレーニングの授業を実施した。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
1 教育課程・学習指導						
2) 教科指導における内容や工夫	指導方法を工夫する。	各授業で繰り返し学習を行い、知識の確実な習得に努める。	公務員に必要な知識の習得と、習得の過程での努力や継続力、忍耐力を育成する。	A	A	知識を習得し
			多くの問題に当たらせ、傾向と対策の授業を行う。	A	A	実施できた。
			問題の解法を通して思考の柔軟性を養う。	A	A	授業を通して身につけた。
		クラス全体が同じ目標に向かって努力しているという連帯感を感じさせる。	長期にわたる過密な学習により、精神的なフォローを行えるよう個々の学生と日頃から関わっていく。	A	A	面接対策の中でカウンセリングを実施した。
			クラス全員が公務員になるという目標の下、協力や助け合い等の体験をさせる。	A	A	グループワークの実施により体験することができた。
		クラス全体が、お互いにライバルであるという緊張感と、やる気を出させる。	毎週、模擬試験を行い、上位成績者を公開し、動機付けを行う。	A	A	上位を目指して努力していた。
	人材を活用し、実践的な「基礎力」を育成する。	科目ごとの教員がそれぞれの分野で、高度な知識の習得のための授業を行う。	公務員試験合格の実績を積んだ教員が、本人の貴重な指導方法を教材として活用し、より効果的に「基礎力」が育成できるように努める。	A	A	
		公共のために仕事をするという自覚を持たせる。	就職先となる現場で活躍している人（卒業生など）を講師に招いた講演などを行い、仕事に必要な「基礎力」、仕事の達成感や厳しさについて理解させるように努める。	A	A	警察官、自衛官、市役所職員等の説明会を実施することができた。
	年間のスケジュールを基に学生に計画的な学習をさせる。	年間のターム表で公務員試験までの日程を把握させることにより、計画的な学習指導につなげる。	実務教育出版のカリキュラムを中心として、それぞれの科目の特徴を生かして計画を立てさせる。	B	B	スケジュールの管理ができていない学生が見受けられた。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価	成果と課題	
2 学生指導						
(1)	生活指導 全教職員で挨拶・礼儀の指導を行う。	挨拶や礼儀、容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	授業の開始・終了時の挨拶の徹底、週1回のビジネスマナーの日のスーツ、ネクタイ着用、頭髪をチェックし、社会人となる自覚を促す。	B	B	年間を通してスーツの着用を忘れていたり、後期に頭髪を染めた学生がいた。
		出席率を95%以上、遅刻者を5%以内にする運動を推進する。	一日欠席をすると授業が遅れていくことを自覚させる。欠席早退の連絡を徹底させる。	B	B	出席日数が足りずに、欠課オーバーとなり、補講が必要な学生がいた。
(2)	相談 問題行動の予防に努める。	クラス担任制によるきめ細かな生活・学習指導に努める。	悩みを抱える学生の早期発見に努め、適正な教育相談を行い、問題行動を未然に防止する。	C	B	問題行動を起こしてしまった学生がいたため、適宜面談を実施し、改善を促した。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題	
				前期	年度末		
3 進路							
(1)	キャリアサポート	早期に面談や適性検査等を実施して、学生の希望にマッチングした適切な受験先を指導する。	入学時に学生の受験先を調査・把握し、在学中のキャリアサポート活動に活用する。	志望職種調査を実施する。	A	A	個別面談で確認した。
				個人面談を実施する。	B	B	実施回数が減少した。
			学習のモチベーション、受験先への合格の動機づけなどを高めるため、入学後の早い段階から、就職適正に関する個別面談・指導を行ったり、就職適性検査を実施する。	公務員ガイダンスを実施し、職種の紹介や受験科目、合格率等を知らせる。	A	A	実施できた。
				公務員試験に関わる資料は入手後すぐに学生に提示し、具体的な志望先を検討させる。	A	A	確認できていた。
	具体的でわかりやすいアドバイスを行う。	2次試験対策としての面接指導、および作文指導を徹底させる。	模擬面接を通して、個々の特徴ある自己PRを引き出す。	A	A	自己分析シートを活用できた。	
			複数の教員による模擬面接を行うことにより、多様な受け答えが出来るよう指導する。	A	A	面接スタンプラリーを実施した。	
	公務員担当者の資質の向上を図る。	年代ごとに外部研修会への参加を促し、カウンセリングやキャリアアップのための知識やスキルを身に付け学生指導に生かすよう努力する。	職員のスキルアップのため、資格取得や研修会への参加を奨励する。	C	C	取得したものは少なかった。	
			実務教育出版研修会への参加。		C	参加しなかった。	
	家庭との連携や協力を深める。	家庭が役割を認識し、その機能を發揮してもらうため、保護者とのコミュニケーションを密にするなど、家庭との連携・協力を深める。	IBA通信の発行（年6回）	A	A	分担して発行	
			保護者会を実施し連携を強化する。（年5回）	A	A	実施できた。	
	豊かな人間性を育む。	躰教育・挨拶運動・読書運動・5S運動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）・ボランティア活動の推進など、豊かな人間性の涵養に資するような、学校独自のプログラムを実践する。	校内清掃の徹底を行う。	B	B	清掃に参加しない学生がいた。	
			不定期の校外清掃への参加を奨励する。	B	B	実施したときは多くの参加があった。	
			市民大清掃に参加する。	C	C	中止となった。	
			外部からの講演会を開催。	A	A	学生自ら計画した。	
職場開拓	学生の就職の門戸を拡大する。	公務員のすべての職種を紹介し、学生の選択の幅を広げる。	公務員の情報誌や研修会へ積極的に参加し、最新の情報を入手し、学生に紹介する。	A	A	市町村の説明会に参加をした。	
(3)	資格取得	就職に直結する資格取得に積極的にチャレンジする。	就職試験後の授業で関わる分野での検定試験を紹介し、積極的に取得するよう指導する。	職場で役立つ資格試験を取得する課程での、知識の習得、技術の向上を目的とする。	A	A	ほぼ全員が3検定以上取得できた。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題	
				前期	年度末		
4 社会人基礎力							
(1)	前に踏み出す力	学生の主体性を育成する。	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む能力を育成する。	学生の代表で学生行事(お楽しみ会、祝賀会等)の企画運営を行う。	A	A	協力してできていた。祝賀会は中止。
		周りに働きかける力を育成する。	周りの人に呼びかけ、目的に向かって人々を動かす能力を育成する。	全学生を一つの方向に向かせ行事を成功させる。	A	A	協力できていた。
		実行力を育成する。	自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む能力を育成する。	公務員試験合格を目指して目標を設定し、継続して努力させるよう指導をする。	A	A	最後まで諦めずに努力していた。
(2)	考え抜く力	課題発見力を育成する。	現状を分析し、目的や課題を明らかにする能力を育成する。	目標を達成するには何をなすべきかなど弱点を把握し、それを元にアドバイスする。	A	A	早期からの自己分析を実施した。
		計画力を育成する。	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する能力を育成する。	目指す目標に向かって、入学時から時系列的な準備をサポートする。	A	A	全体説明会を実施した。
		創造力を育成する。	新しい価値を生み出す能力を育成する。	一つのことを成し遂げるにより新しい気づきが生まれることを体験させる。(協調性・達成感)	A	A	多くのグループワークを実施できた。
(3)	チームで働く力	発進力を育成する。	自分の意見を相手にわかりやすく伝える能力を育成する。(表現力)	グループ学習を通して自分の意見を述べる機会を多く設ける。	A	A	しっかりコミュニケーションが取れていた。
		傾聴力を育成する。	相手が話しやすい環境をつくり、相手の意見を丁寧に聞く能力を育成する。	外部講演会や講話を聞き感想を書かせて、聞く姿勢と内容を把握する力を養成する。	A	A	学生主体で進行できたため、非常に興味を持っていた。
		柔軟性を育成する。	意見の違いや立場の違いを理解する能力を育成する。	クラス内や、学校内で話し合う機会を設け、意見を一つにまとめるコンセンサス能力を養う。	A	A	グループワークを通して養うことができた。
		状況把握力を育成する。	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力を育成する。	問題が起きたときは、まずは学生同士で解決できるよう日頃から自主性と判断力を持つよう指導する。	B	B	学生同士での解決が困難な時は、面談を実施した。
				ボランティア活動を積極的に行い、公德心を養う。	B	B	回数が減少した。
		規律性を身につけさせる。	社会のルールや人との約束を守る力を育成する。	集団で生活することで、クラス内のルール、学校のルール、社会のルールを意識させ守らせる。	A	B	後期での頭髪の染色、無断での遅刻欠席が多くなった。
提出物は期限を守らせ、破れば成績に響くことをわからせる。	A			A	守れていない学生に対して、厳しく指導した。		

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題	
				前 期	年 度 末		
5 広 報							
(1)	学生募集	わかりやすい募集要項を作成、学生募集を行う。	受験生やその保護者にわかりやすい募集要項(学校案内)を作成する。	パンフレット、募集要項の作成。			次年度休校のため、実施なし
			高等学校訪問を実施し、在校生の状況説明や学校のPRを行う。	学校訪問を計画的に行う。			次年度休校のため、実施なし
			ホームページを適宜更新し、学生の様子や学校の取り組みの紹介等を行う。	ホームページの専任担当者を配置し、広報活動の強化に取り組む。	B	B	更新頻度が下がった。
			学校説明会、オープンキャンパス、1日体験入学を実施して学校を体験してもらおう。	説明会を計画・実施し、学生募集へつなげる。フリーペーパーなどを利用して広報活動を行う。			次年度休校のため、実施なし
			WEBを利用した広報活動を行う。	LINEとホームページを活用する。	B	B	連絡事項には活用できた。
6 組織・運営							
(1)	学校経営方針	経営方針を明確化にし、その実践を行う。	明示した中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	中長期の学校経営計画を策定する。			次年度休校
				学校経営方針会議を実施する。			次年度休校
(2)	学校評価	学校自己評価を実施し、その結果を発信する。	自己評価結果をホームページで発信し広く外部に公表する。	年度末に自己評価結果をホームページに掲載する。		A	
(3)	授業評価	教員の指導力を高める。	学生による教員の授業評価を実施し、教員の専門性・指導力の向上を目指す。	前期末、後期末に授業評価アンケートを実施し、結果を分析し改善を行い、教員の指導力向上に役立てる。教職員にビジネス系検定の取得を奨励した。	B	B	アンケートを実施し、結果を回覧した。教職員の検定取得はなかった。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題	
7 施設・設備							
(1)	チームで働く力	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検を月1回以上行い、環境整備を図る。	毎日の校内や教室の巡回点検を行い、外壁や配線の点検を実施する。	A	A	
			日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	防犯カメラの設置やエレベーターや防火機材の点検等を実施する。	A	A	
			省エネ運動を推進し、水道使用量や電気使用量を前年比5%減に努める。	使用量の表示を行い、教員を通じて、教室やトイレの使用後消灯の習慣を身につけさせる。	A	A	
				節水の表示を行う。	A	A	
(2)	情報インフラの設備・充実	パソコン等を使った校内処理を適切に行う。	パソコンによる校内処理を推進してデータ共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	学生の成績管理、出席管理はパソコン上で行い、情報はサーバーで集中管理し、セキュリティに十分注意してデータの共有化を図る。	A	A	
			パソコン上学生情報等の管理の徹底を図る。	サーバーの管理者を定め、定期的にメンテナンス、バックアップを行い、学生情報等の管理徹底を図る。	A	A	